

FUJITSU Server PRIMERGY

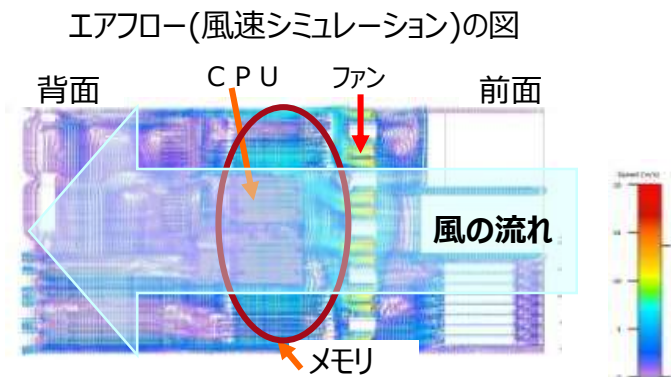
設計品質

■ 高温箇所に直接冷却するエアフロー設計

- ・構造設計時に熱流体シミュレーションを行い、プロセッサやメモリなどの高温箇所に直接冷却ファンにて風を送るレイアウトを採用

■ 筐体内温度により冷却ファンの回転数を最適に制御

- ・冷却ファンとして、デジタル制御可能なファン(PWM^{*1}ファン)を全モデルに採用
- ・環境温度や主要部品(CPU等)の温度を温度センサにより監視し、回転数を最適化して電力消費を削減



高品質な部品の確保と安定調達の実現

■ 部品選定段階における取組み

- ・粗悪な水系コンデンサ^{*2}等、不適格部品の排斥
- ・LSIパッケージのリン成分など不適格成分を含まない事を確認
- ・ウイスカ、クラック^{*3}等、環境対策による新たな品質問題への対応

■ 部品や部材の高品質を追求する専門体制

- ・サプライヤーとの品質向上体制
 - トップレベルの品質確保と問題発生時のサプライヤー連携による早期解決を実現
- ・部品データベース化による不適格部品の徹底排除

※1 PWM : Pulse Width Modulation ※2 水系コンデンサ : 水系電解液を用いたコンデンサ ※3 ウイスカ : 針状に成長する金属の結晶により、回路短絡に繋がる現象 クラック : モールドの膨張によるヒビ

FUJITSU Server PRIMERGY

製品品質

■ 経年変化障害とロット障害を未然に防止

経年変化を見据えた品質試験

- ・システムレベル(製品本体)で高負荷環境の加速試験を実施



ORT※1試験機

■ 電波障害の安全レベルを規定した規格に適合

電波障害が無い事の検証試験

- ・稼働時に装置より発生する電波を測定しVCCI※2等の規格に適合することを検証



電波暗室

■ 震災によるリスクを回避

地震/輸送振動に強い富士通ラック

- ・合成地震波試験による震度5の揺れにも壊れる事なく業務再開可能※3
- ・輸送2000km走行に相当する振動試験を実施



振動試験機

■ 装置に対する高負荷の電源試験を徹底的に実施

毎日ON/OFFする運用を想定した電源試験

- ・設計評価段階、量産製造にそれぞれ電源ON/OFF試験を実施(全数チェック)
- ・高温試験中に電源ON/OFF試験を実施(抜き取りチェック)



導入時の初期不良を撲滅するために振動試験や落下試験を実施

梱包状態による落下試験

- 出荷梱包での落下試験
- 輸送中や導入設置時の落下によるトラブルを防止



ISO規格準拠

輸送時の振動耐久性検証試験

- 製造拠点から各地区物流センターへ運送し、梱包状態や装置の正常稼働を確認



各地区物流センター

導入設置、稼働時の振動耐久性試験

- 専用試験機によるタワー、ラック搭載時のラックサーバの振動試験、合成地震波試験を実施



EN(European Norm)規格(欧州規格)準拠

※1 ORT(Ongoing Reliability Test) : 経年変化による高負荷加速試験

※2 VCCI(Voluntary Control Council for Information Technology Equipment) : 電子機器から発生する妨害電波に関する規格

※3 震度5に対する耐震性を保証するものではありません